



天文同好會觀測部月報

黃道光課より

課長 荒木健兒

去る7月20-21日の兩日近江石山で顧問や課員の主な人々を招き「黃道光會議」を開きました。會する者十名。甚だ實のある催ほしでした。平素の觀測經驗から種々の協議や打ち合せをなし、殊に來八月初から翌19

33年7月末まで世界的に行はれる Polar Year のためのプログラムを熱心に相談しました。詳細は本誌第 254 頁及び「通信」を御覽下さい。

觀測部流星課報告 (35)

課長 小槇孝二郎 (K. Komaki)

本年一月及二月の觀測は比較的少數であつたが、例年の四分儀流星群は五六名の方々によつてよく觀測され、又二月初旬の牧夫座流星群の出現がめづらしくも八幡君によつて確かめられた。

× × × ×

流星の觀測には、其の性質上、常に絶えざる天空の監視といふ事が必要な事ではあるが、他面困難な事であり、又著しい効果を見出すには長年月の努力を要する事である。故にこれは觀測者の増加と觀測體系の統一とが相俟つて行はれなければならぬもので、一個人の仕事として行ひ得るものにはあり得ない。

これに反して、一個の流星群に關する計畫的な觀測は興味の深いものであり、且獨力にて相當な効果を挙げ易いものと思ふ。二月當初に於て上記の如く八幡君が、牧夫

座流星群の連續的觀測を遂げられ、立派な成績を得られた事は、この意味に於て、大いに推奨すべきものと思ふ。又毎月佐野君等が鋭い視力で、流星群の連續觀測を行はれてゐるゝ事も、流星群の眞實性を確保する上に重要な意義を有するものである。

札幌市の下保君が、夜半前に四分儀の流星群を觀測されてゐるが、これはあまり類例のない事である。輻射點が地平線上にあるかぎり、觀測の可能性はあり得るものであるから北海道乃至樺太の如き高緯度地方の觀測者には注意すべきものと考へられる

觀測者及び觀測數 (Summaries of Observations)

觀測者 Observer	略符 Abbr.	觀測地 (Locality)	一月 January			二月 February		
			回數 Nights	時間數 Duration	流星數 Meteors	回數 Nights	時間數 Durations	流星數 Meteors
阪元鐵馬	Sk	福岡縣箱崎	2	210	39			
下保茂	Kh	札幌市	2	108	5	1	30	1
樋口廣人	Hg	廣島市	2	80	21			
稻垣武五	Ig	東京市	1	90	22			
小楨孝二郎	Ko	和歌山縣金屋	2	210	58			
山田長	Yd	山口縣小郡				2	136	4
橋本迪	Ht	兵庫縣相生町				6		7
宮井三次郎	My	花山天文臺				1	60	7
八幡修一	Yw	長野縣平野				3	300	56
長谷秋男	Ng	山口縣徳山	2	30	52			
佐野英主	Sn	京都府中筋	10	680	192	9	540	166
窪田繁夫	Ku	京都府福知山	3	250	88			

觀測の概略 (Daily summary of observations)

日時 Time (J.C.T.)	觀測者 Obs.	時間數 Dur.	流星 Meteors	F.	日時 Time (J.C.T.)	觀測者 Obs.	時間數 Dur.	流星 Meteors	F.	日時 Time (J.C.T.)	觀測者 Obs.	時間數 Dur.	流星 Meteors	F.	
Jan.					Jan.					Feb.					
4.12	Sk	120	17 (5)	0.7	4.83	Sn	105	10	0.4	23.78	Ht	20	1		
5.16	◇	90	22 (1)	0.9	5.15	◇	130	17	0.5	28.80	◇	30	1		
4.78	Kh	48	3 (3)	0.7	.83	◇	45	17	0.4	29.80	◇	35	1		
5.19	◇	60	2 (1)	1.0	6.80	◇	90	47	0.4	15.15	My	60	1		
3.23	Hg	30	3 (2)		7.12	◇	30	12	0.2	1.87	Sn	275	21	0.2	
4.23	◇	50	12 (9)		8.79	◇	40	32	0.5	4.87	◇	70	11	0.2	
4.18	Ig	90	22(11)	Good	28.83	◇	50	19	0.3	7.81	◇	50	21	0.3	
4.13	Ko	100	28 (6)	0.7	Feb.	2.15	Yw	120	16	0.8	10.83	◇	20	24	0.6
5.17	◇	110	30 (3)	0.9	4.10	◇	60	16	0.9	11.84	◇	30	12	0.3	
6.94	Ng	15	32	1.0	5.10	◇	120	24	1.0	26.89	◇	20	16	0.7	
29.87	◇	15	20	0.7	28.82	Kh	30	1	0.9	27.88	◇	60	26	0.4	
4.15	Ku	130	39(26)	0.6	11.85	Yb	76	2	0.7	28.90	◇	50	18	0.3	
5.11	◇	90	33(22)	1.0	12.86	◇	60	2	0.6	29.88	◇	65	27	0.7	
6.78	◇	30	12	1.0	3.83	Ht	30	1							
2.80	Sn	85	9	0.3	5.80	◇	30	1							
3.15	◇	45	4 (1)	0.2	10.83	◇	35	2							

備考 1. 括弧内の數字は四分儀流星群に屬する流星數である。

2. Ng の觀測はすべて微光流星, Ku Sn の觀測中には多數の微光流星を含む。

流星群の出現狀況 (Notes on Apparitions of Meteor Swarms)

I. 四分儀流星群 (Quadrantid)

本年の四分儀流星群は阪元、下保、樋口、稻垣、窪田、佐野の諸氏及び筆者に依つて観測された。出現の程度は例年に比較して少々劣つてゐたらしく、顯著なる極大には遭遇しなかつた様である。神田清氏の研究された極大たる黄經 282.4° (神田氏著流星

と隕石 62—64 頁参照) に相當する時刻は四日午前八時頃であるが、これに最も近い樋口氏の観測にても一時間平均十個を見てゐるに過ぎない。昨年八幡氏が四月中に多數のものを見られたのに比してやゝ淋しい氣がする。輻射點は數個得られてゐる。

II. 牧夫座流星群 (ι -Boötid)

上記の如く長野縣の八幡氏の行はれた單獨観測である。充分とは云ひ得ぬが、三夜に亘つて其の存在を確認せられ、立派な輻

射點も獲得せられてゐる。観測の概略を下に掲げる。

日 Date	観測開始 Begins	同終了 Ends	時間數 Duration	流 星 Meteors	牧夫群 Boötids	F	一時間平均 Hourly m.	同左修正 Corr. H.M.
2	2h 40m	4h 40m	120	16	1	0.8	0.5	0.6
4	2 0	3 0	60	16	3	0.9	3.0	3.3
5	1 30	3 30	120	24	6	1.0	3.0	3.0

III. 其他の流星群 (Other Swarms)

筆者は四分儀流星群の出現した4日及5日に於て、大熊座附近に一流星群の活動せるを観測した。一時間の平均數は、4日に於ては5個であつた。

群を見られてゐる。

八幡氏は二月5日牧夫座附近に一流星群を見られ、宮井氏は15日早曉に蛇座に一流星群を見られてゐる。

阪元氏は一月5日早曉キリン座に一流星

佐野氏の観測された流星群中著しいものは、

アンドロメダ λ 流星群 (λ -Andromedid) 一月5日, 6日

兔座 α 流星群 (α -Lepusid) \nearrow

一角獸流星群 (Monocerid) 二月1日, 4日, 7日

獅子蟹流星群 (Leo-Cancerid) 二月7日, 10日, 11日

大犬 θ 流星群 (θ -Canis Majorid) 二月10日, 11日

獅子 θ 流星群 (θ -Leonid) 二月26日, 27日, 28日, 29日

上記の中、一角獸流星群の輻射點はレギュラーな東方移動をしてゐる事が観測された。

觀測より誘導したる輻射點 (Radiant points derived from observations)

番 號 Curr. No.	日 時 Time (J.C.T.)	輻射點(Rad. pt.)		流星數	觀測者 Observer.	確 度 Weight	備 考 Remarks
		R. A.	Decl.				
1114	Jan. 4.12	231	+51.5	6	Sk	3	Quadrantid
1115	4.13	235	+55	9	Ko	3	〃, 3 on 5d
1116	4.13	205	+58	12	〃	3	ζ-Ursid, 4 on 5d
1117	4.15	230	+51	26*	Ku	3	Quadrantid
1118	4.18	230	+50	11	Ig	2	〃,
1119	4.78	237	+57	4	Kh	2	〃
1120	5.11	231	+54	22*	Ku	3	〃
1121	5.16	115	+59.5	6	Sk	3	Camelopardalid
1122	Feb. 5.10	218	+30	5	Yw	3	ρ-Boötid
1123	5.10	211	+51	6	〃	3	τ-Boötid
1124	15.15	226	+ 7.5	4	My	2	Serpenid

* 微光流星を含む

彗 星 だ よ り

花山天文臺 中 村 要

1932a Grigg-Skjelleru 彗星 グリツグ、スクエレルブ彗星は各地の天文臺でよく觀測されたが、甚だぼんやりした彗星であつて、この様な彗星は眼視的には明るくても、寫眞的に觀測の場合(殊に短時間露出の際)は光度が甚だ淡く見積られる。近日點通過は5月12.71日とクロンメリン老が計算したが、推算軌道要素も多少悪いので觀測と推算とよく合はない。

1932b Houghton-Fnsor 彗星 5月末に約12等でも早や長く觀測出来ない。ホートン及びエンソア一兩氏共變光星 T Apodis 觀測の際に發見したものである。最初の間はユニオン天文臺、赤道を北に超してからは北天の觀測者によつてよく追跡されて居る。

1932c Carrasco 彗星 6月中頃に約13等で漸次に淡くなつて居る。中央の明るい割合にはつきりした彗星であるから觀測し易い。

1932d Kopff 週期彗星 5月25日にアル

ゼンチンのコルドバ天文臺のボブネBobone氏が發見した。Kepinskiの推算とのO-Cは-40s, +1.6に過ぎない。筆者も5月24日夜ふと思ひついで同彗星掃索の爲に11センチ及び8センチ、カメラで推算位置を撮影して一度探したが餘りよくない原板であつたので其のままにしておいた。其の原板から發見位置を頼りにやつと其れらしい像を見つけた。

時 分 秒
May 24.5654 15 11 39 -26° 16.7 〃中 村
25.0788 15 11 18.8 -26 11 12 ボブネ

6月9日に(發見通知到着前)30センチ屈折鏡で眼視的に探したが月明の爲に不成功に終つた。6月29日に花山で觀測した際には12.5等でこれより明るくならない。

1932e Newman 彗星

6月23日着電。

6月20日4時49.4分 U. T.

$\alpha=15$ 時 37分 16秒 $\delta=+7^{\circ} 56'$

日々運動-2分8秒, +44分 光度13.0等
詳細不明

1932年 六 月

觀測者(地名)	三澤(諏訪)	改發(須磨)	龜井(花山)	山田(小郡)	下保(札幌)	沓掛(長野)	伊達(大阪)	大橋(京都)	水谷(東京)	木邊(近江)
1	11	11	11	11	11	雨	曇	曇	雨	11
2	0	0	欠	雨	0	曇	0	雨	0	0
3	雨	雨	11	雨	0	雨	雨	雨	曇	0
4	13	曇	欠	14	14	雨	曇	17	雨	14
5	20	18	欠	19	16	13	19	23	曇	16
6	17	曇	欠	雨	18	曇	曇	曇	雨	17
7	41	曇	欠	曇	曇	曇	雨	雨	曇	17
8	60	50	欠	曇	14	曇	49	42	曇	56
9	43	55	欠	32	37	25	48	40	27	53
10	42	50	31	31	38	23	39	37	25	36
11	31	43	26	29	29	14	43	27	24	43
12	28	25	25	曇	23	12	36	曇	曇	37
13	11	13	11	曇	11	曇	12	11	11	11
14	12	11	12	11	11	曇	11	11	11	11
15	11	曇	11	雨	11	0	0	0	0	11
16	雨	曇	雨	病	11	雨	曇	雨	雨	雨
17	22	曇	曇	病	24	曇	23	12	曇	22
18	23	22	22	病	23	曇	30	12	曇	23
19	30	29	27	病	19	19	曇	18	16	28
20	26	雨	25	雨	17	18	曇	曇	12	24
21	雨	雨	雨	雨	21	曇	雨	雨	曇	雨
22	35	曇	曇	曇	22	曇	曇	曇	雨	曇
23	36	曇	28	曇	24	曇	34	曇	曇	38
24	雨	39	32	欠	31	雨	41	15	曇	40
25	46	曇	38	欠	35	36	45		34	44
26	54	44	37	42	31	30	忙	曇	28	44
27	36	曇	34	曇	25	曇	曇	曇	曇	25
28	31	33	25	38	27	25	31	26	26	27
29	39	20	36	41	37	曇	40	曇	曇	40
30	30	34	26	雨	39	31	29	28	27	30
平均	29	29	25	27	21	21	29	18	18	27
日數	26	17	19	10	29	12	18	15	13	27

太陽課より

幹事代理(龜井)

此月分の記録を左の十氏から頂きました。出来れば他の方の御報告も共にと、お待ちいたしました。メ切日までに頂けませんでしたのは残念に存じます。

本年一月以後の月報を一瞥しただけで、五月から六月へと活動の盛んになつてゐるのがわかりますが、御報告を整理しながら此の次にはどんな数字が現れるだらうかなどと考へますと、なかなか興味深く、御報告を頂く月初めになるのが待たれますやうなわけで御座ります。

下記の方からは、御報告は確かに頂いてゐますが、残念ながら……と云ふ次第で御座ります。

四月分 水谷氏

五月分 改發氏、水谷氏、山田氏、下保氏、七高天文學會。

別頁「黄道光會議」の決議により、來7月末から我が太陽課は黒點相對數の「旬報」(毎月10日毎の至急報)を發行することになりました。花山天文臺では、以前から、太陽面の直接寫眞撮影と、カルシウム羊毛斑の撮影と、カルシウム紅焰の撮影とをやつて居られますが、特別に「極年」のため新事業として太陽面の大型寫眞を18赤道儀で撮影することとなり、小生が此れに當ることに定められました。